

2010年7月10日

米医療機器 VB に出資 三菱商事、成長見込む

三菱商事は皮膚がん診断装置を開発する米国のベンチャー企業に出資した。米医療機器大手ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）と共同出資するファンドを通じて 25 万ドル（約 2300 万円）を拠出、出資比率は 10%を超えたもようだ。米国では医療機器メーカーが新技術獲得のためにベンチャーを買収する事例が多く、ベンチャー育成を成長事業と位置付け投資を加速する。

皮膚がんの一種である悪性黒色腫（メラノーマ）の診断装置を開発するオールセント（カリフォルニア州）に資本参加し、追加出資も検討する。メラノーマは一般に皮膚の一部を採取して調べるが、オールセントは、メラノーマの疑いがある部位に特殊な薬品を塗ってカメラで撮影、診断する装置を開発する。検査期間に短縮や患者の負担軽減につながる。

近く臨床試験を始め、2012 年の実用化を目指している。三菱商事が J&J などと共同出資するエマーゼント・メディカル・パートナーズ（カリフォルニア州）は技術や法務などの面でも支援する。三菱商事は製品の日本やアジアにおける販売を請け負う。

三菱商事は 07 年 J&J や米著名医師のトーマス・フォガティ氏と共同でエマーゼントを設立。ファンドの規模は 7000 万ドルでこれまでに 21 社に投資している。

米国における医療機器ベンチャーへの投資総額は 03 年に約 15 億ドルだったが、その後 5 年間で倍増。各社が M&A（合併・買収）を積極化しており、医療機器ベンチャーへの出資は投資回収の面でも有望とみられている。

＝日経新聞＝